

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	介護老人福祉施設 No. 0176400034		
法人名	社会福祉法人 萌寿会		
事業所名	グループホーム 萌寿園		
所在地	北海道留萌市沖見町6丁目-18-6		
自己評価作成日	平成24年1月11日	評価結果市町村受理日	平成24年3月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0176400034&SCD=320
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

特養養護老人ホーム、デイサービス、居宅介護支援が併設されており協働体制が整っています。地域との関わりを大切に花火大会や盆踊りなど、行事を通して地域との交流を図っています。 建物は回路式となっており広く開放的な造りとなっています。元職員らがボランティアとして、書道や制作、歌などの指導をし利用者の楽しみの時間をつくっています。また、職員は利用者と一緒に野菜を栽培し、その野菜を利用した漬物作りを行うなど 利用者の持つ力を発揮できる場を設けています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市本町5丁目2-38
訪問調査日	平成24年2月9日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

留萌の見晴らしの良い高台に位置したこのグループホームは、住宅街の中にあり地域との連携や、併設の社会福祉法人 特別養護老人ホーム萌寿園とも協働体制が出来ており、利用者と一緒に楽しく明るいホーム作りに努めています。特に、ホーム職員のOBが中心となって利用者に関わる各クラブ活動は、利用者にとって楽しみの機会であり、手芸や創作・音楽がリハビリとなり意欲の向上に繋がっています。簡単に出来る手作業で大作を仕上げ、完成作品を展示する事で利用者と職員は一緒に称え、次の作品制作に向け取組んでいます。特養の利用者と一緒にカラオケやスナックに出かける事もあり、家庭では難しい事を今でも続けています。管理者と職員はキャラバンメイト養成で地域に貢献したり、利用者の持てる力を発揮出来るように常に利用者向き合っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者、職員は理念である「楽しく、明るいグループホームを目指し、楽しみごとを工夫し、また、笑顔で絶やさないうちに日々のケアにおいて実践。	利用者が楽しく、理念にある明るいグループホームを目指せるように、一人ひとりに合った自由な生活を大切にしています。職員は利用者と目線を合わせ、判り易い言葉で話しかけ、想いに応えられるよう利用者本位のケア実践に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	母体の特養と共に地域の学校や飲食店へ出かける行事を実施している。また、地域住民の災害協力会とも協力関係を築いています。	法人本体が町内会に加入しており、地域の情報収集や町内の災害協力会を中心に運営推進会議での話し合いもしています。留萌祭りや盆踊り、特養の行事に合わせ一緒にスナックに出かける等、地域に溶け込める交流を日々行なっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ヘルパー実習の受け入れをしている。また、事業所単独ではなく法人内職員が「認知症サポーター養成講座」に協力している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議を開催。会議内容も家族に報告しています。また、運営推進会議のメンバーも行事に参加、協力して頂いております。	家族や地域の方、民生委員、行政職員、地域包括支援センターの職員等へ会議の参加を呼び掛け、2ヵ月毎の開催が続けられています。会議では現況や活動状況の報告、出席者から意見を頂きホームの運営に活かしています。欠席者へは会議録も配布されています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険係、包括支援センター、ケースワーカーとも連絡を密に取っている。市主催の研修会にも可能な限り参加している。	市には相談や問い合わせ、申請の手続き、地域ケア会議での情報交換、市主催の研修会への参加等で行政関係者とは積極的に連携を図っています。所長はキャラバンメイトとして地域の認知症理解を目指し、講座やキャラバンメイト拡大の貢献もしています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	家族の要望により転倒防止の為に睡眠時にベッドベルトを使用しています。しかし使用時間が短くなるように、ベッドではなく布団で就寝して頂く工夫もしております。	身体拘束をしないケアについては、常に話し合いや研修に参加する事で理解に努めています。日中の施錠もなく、利用者の様子を職員はいつも気にかけています。止むを得ず拘束対応となる場合は、職員は家族と十分に話し合い同意を得ていますが、対応方法の確認や廃止に向けた継続検討も続けられています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修の参加また、内部研修のテーマに取り上げている。会議の中でも「不適切なケア」について取り上げて防止に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去に入居者が日常生活自立支援事業を活用していた。現在は活用していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問点が残らないように説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者家族の来訪時の声がけをするようにしている。また、意見箱を設置して意見や要望を表せる機会を設けている。	ホームからは一人ひとりの生活の様子が通信として毎月配布されています。意見や要望は自宅に出向いたり、面会の時に話しやすい雰囲気作りに努め、会話の中から引き出しています。家族との関係を大切に捉え、時には家族に関わって頂けるような働きかけもしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者は現場の意見や提案などを取り入れケアに反映させている。	会議は毎月開催され、運営に関する意見や要望が聞ける機会が設けられています。食事・環境・行事等の係が部門毎に話し合い、利用者が快適に過ごせる環境作りに努めています。また管理者は、職員の悩みや相談にも積極的に対応しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	入居者にとって住み良い様にまた、職員にとっても働きやすいようにと整備をすすめています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は、介護員全員が出席できるように配慮している。外部研修も全員が情報を共有できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の職員との交流や協力は密に行われている。同業者の交流については、介護員レベルでは認知症介護実践における実習の受け入れに留まっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と関わっている事業所とも連携を図り 安心を確保する為に面談を必須とし 関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人、家族に事業所の様子を事前に見て頂き その上でも要望などを確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている援助を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	畑作業、食事準備、後片付け等 利用者と一緒に行うことによって支え合う関係を築いております。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と共にケア出来るよう受診、理美容の立ち会い等行って頂いている。また、家族参加の行事も実施している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の来訪、馴染みの美容室やかかりつけ医の継続など関係が途切れない様に支援しています。	ホームに入居された後も、各クラブ活動や以前からの趣味の継続や新たな興味への取り組みについて積極的に対応しています。併設の特養では毎月各宗派の僧侶が交替で来園し、お経や説経の場面があり一緒に出かけ心の安心とする機会もあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各部屋への往来もあり利用者同士が関わり合いが持てるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で職員は思いや意向の把握に努め「私の気持ちシート」に記載しケアプランに反映させています。	入居時のアセスメントやその後の課題の把握、計画に添った介護記録・介護日誌に記載する事で状況を確認しています。職員は日常の会話や様子から、想いを的確に表現出来ない部分も捉えられるようにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	「ライフストーリー表」を活用して日々の関わりの中でも把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のミーティングや家族来訪時等でも確認し把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日のミーティングや月の会議にて職員の意見やアイデアの交換を行っている。また、本人、家族とは適時 面会や電話にて話し合っている。	日常の記録は、介護計画の目標に沿った利用者の様子を記入するよう努めています。モニタリングや評価がスムーズに行えるよう職員のスキルアップを図っています。見直しや状態が変化した時は家族と話し合い、現状に即した介護計画作成となっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	担当者を決めて情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族の希望や状況に応じて通院、馴染みの美容室にでかける等 可能な限り取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	事業所は孤立せず、地域との交流を絶やす事なく支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に職員が同行し利用者のかかりつけ医の受診支援を行っています。受診後変化がなければ、毎月のお便りで、変化がある時はその都度、電話にて家族に報告しています。	従来のかかりつけ医が継続され、他科を含め基本的に職員が同行し受診しています。医療機関とは信頼関係作りに努め、利用者にとって適切な医療が受けられる支援をしています。受診後の報告も電話や通信で詳しく伝えています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ病院の看護師や法人内の看護師と相談しながら利用者の健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の時に必要な情報交換や相談を医療機関と行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族、本人に口頭で医療行為が必要になった場合には対応が出来ない事は説明しておりますが、医療機関と連携し、家族の協力も得ながら、看とりや重度化した場合にも出来る限り対応しています。	入居時に利用者と家族には、終末期の対応についてホームで出来る最大にケアについて説明しています。現在は職員の入れ替わりが多くあった事で、通常的生活継続を重点に置き、利用者にとって楽しく明るい生活の支援に努めています。	医療連携対応加算は設けていませんが、今後のグループホームの在り方として、職員教育や終末期を家族がどのように望まれているかの把握と、ホームとして出来る最大のケアの在り方を書式化し、段階的に家族と話し合える機会が望まれます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の職員全員が救命救急の研修を受けている。また、母体の特養にAEDを設置している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回夜間を想定した避難・消火訓練を実施している。また、地域の災害救出協力会とも連携が図られている。	夜間想定を含めた年2回の避難訓練が行われ、昨年の取り組み課題でもあった地域との連携については、災害協力会のメンバーに見学して頂き連携強化を図っています。また電化による停電時に対応するため、カセットコンロ、ガスボンベ等も用意しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個々の性格、個性を十分に把握し誇りやプライバシーを損ねる事が無いように常に留意している。	楽しく明るい生活を続けるために家庭的な雰囲気を作りながら、一人ひとりの尊厳を大切に挨拶や声掛けには十分注意を払っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢のある声かけや質問をするなど自己決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々の状態に合わせた対応希望に出来る限りそえるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出する際は、おしゃれに心掛け、お化粧の援助も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は職員と一緒に同じテーブルで会話を楽しみながら食事をしています。また、食材の買い出しに利用者も同伴しメニューやおやつ希望を取り入れています。	目の前で作る温かく美味しい食事が提供され、利用者も下ごしらえや片付けを手伝い、職員と一緒に食事を楽しんでいます。誕生日や季節のイベントに合わせた献立、敷地内の車庫で焼き肉、ドライブに出てレストランで食事、食材と一緒に買い出しに行く等の機会もあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体の栄養士に栄養価のチェックを担って頂き 利用者個々に応じた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者個々の力に応じた支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ排泄を基本に排泄パターンを把握し声かけ、誘導を行っています。自立している方も多いのですが、後の始末を職員がさりげなく行うなど、その方にあった支援を行っています。	職員は利用者の排泄パターンを把握し、トイレでの自立した排泄を支援しています。夜間の排泄も出来るだけトイレへの誘導を行い、ポータブルトイレ利用の希望がある方についても、要望に添い安全に配慮した対応をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週三回の入浴を実施している。利用者のその日の状況や本人の希望を確認し個々に添った支援を行っている。	週に3回の入浴の機会を設け、家庭的な浴室で一人ひとりの想いに応えた対応をしています。状況に応じ清潔保持の為の対応も適宜行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない方には、話し相手になったりホットミルクを飲んで頂くなどして 安心して休息が出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬について介護員がいつでも確認できるように、薬の説明書の保管場所を決めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の役割として決めつける事はせず 得意分野で負担なく力を発揮できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には食材の買い物に出かけたり、敷地内の散歩をしております。母体の特養やデイと共同でドライブや外食など戸外へ出る行事を実施するなどの外出支援を行っています。	ホームの年間行事では留萌祭り、盆踊り、ドライブへ出かけレストランで食事する機会と、併設の特別養護老人ホームのイベントに合わせ、カラオケやスナックで楽しむ等多くの外出行事が計画されています。また、ホームの菜園では野菜が栽培され、利用者は手入れや収穫に関わり食卓を飾る楽しみもあります。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力に合わせて家族とも相談しながら支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コードレス電話を使用して自室でお話して頂くなど可能な限り支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部分の壁を利用し 利用者の作品を展示したり、季節を感じて頂ける装飾をしている。廊下の各所に椅子が置いてあり 個々の気分に合わせて過して頂けるようにしている。	平屋でゆとりのある広いホームは、掃除が行き届き清潔感が来訪者を心地良く迎えてくれます。ホール内はゆったりとした空気が流れ、利用者も思い思いの場所で寛いでいます。ソファなど腰掛ける場所を多く配置し、作品を見て語る場面作りも工夫しています。温度や湿度の調整、気になる匂いもなく利用が居心地良く生活できる空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	掲示作品を観ながら会話を楽しまれたり、テレビを見ている人など思い思いに過して頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはベッド、冷蔵庫、チェスト、カーテンは備え付けられていますが、各自で使い慣れた家具や、仏壇・写真などを持ち込まれ 自分らしく配置して頂いております。	各居室には、チェスト・ストーブ・加湿器・カーテン・ロッカー・ベッド・冷蔵庫が設置されています。利用者の生活習慣に合わせた寝具を配置し、仏壇を備えている方もいます。家族の写真や装飾でそれぞれが個性を表せる空間となり安心して暮らせる居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、自室がわからない人には、張り紙をして示している。建物中央部に対面式の台所をおき全体を確認出来るようなつくりとなっている。		